

高尾山古墳だより

第12号 2021年8月

高尾山古墳を守る会

夏休み小中学生特集 高尾山古墳を知っているかな。

皆さんは高尾山のお祭りに行ったことがあるよね、沼津を代表するお祭りの一つだ、このお祭りの行われる、高尾山穂見神社に古墳（こふん）と呼ばれている古い大きなお墓があることを知っているかな。みんなのひいじいちゃんやひいばあちゃんのお墓よりもずっと大きな古いお墓だ。

日本一大きくて有名な古墳はつい最近、世界文化遺産になった百舌鳥・古市（もず・ふるいち）古墳群にある大仙古墳（だいせんこふん・仁徳天皇陵 図1）の全長486mだけど、テレビや本で見たことがあるかな、これはエジプトのフク王のピラミッドの一辺230m、秦の始皇帝陵の350mより大きい世界一大きなお墓だ。高尾山古墳はこんなにも大きくはないけど、写真で見ての通りの大きなお墓だ（図2）。

今この高尾山古墳の周りが大きく変わろうとしているのを知っているかな。ここには愛鷹山の東名高速道路の方からリコー通りにつながる広い道を作る計画があって、この道と高尾山古墳がぶつかってしまうんだ。そこで沼津市は道路も古墳も市民には大切なものだから、両方をうまく合体させ歴史公園とする計画なんだ。この計画は古墳の上に橋をつくり、下にもトンネルを通し、古墳を壊さなくてもいいように古墳の上下に道路を通す計画なんだ（図3）、みんなにも、古墳や道路がこれから、どんなふうになくなって行くかぜひ見守ってほしい。



図1.大仙古墳（仁徳天皇陵）



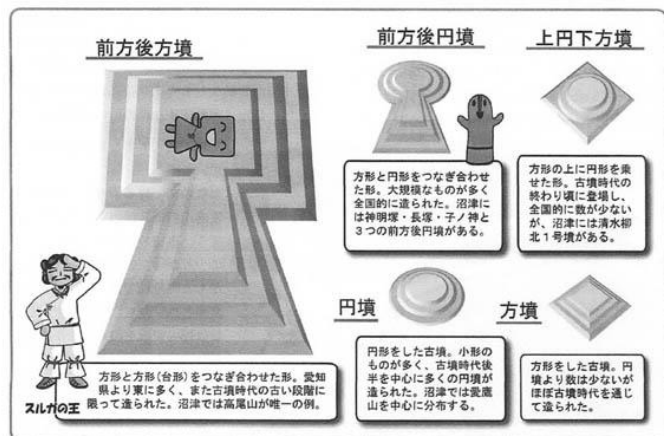
図2. 高尾山古墳



図3.道路計画 「みちにお案」

ところで、大仙古墳と高尾山古墳の写真を見て気が付いたかな、図1の大仙古墳と図2高尾山古墳は大きさも違うけど、形も違うね、高尾山古墳は前が方形で後が四角のようになっている。大仙古墳の方は前が方形で後が円のような形になっている。高尾山古墳のような形、前が四角（方形）後も四角（方形）のものを前方後方墳というんだ、墳（ふん）とはお墓のことだね。もう一つ、大仙古墳の方は前が四角くて後は丸いから前方後円墳と呼ぶんだ。

古墳の形にはこれら以外にも、円墳（えんぷん）や方墳（ほうふん）、上円下方墳など色々な形がある（図4 古墳の種類）。金岡中校区内には、前方後方墳の高尾山古墳の他にも、前方後円墳の長塚古墳、上円下方墳清水柳1号墳などがある。長塚古墳（図5）は古墳の上に登って前方後円墳の形を体で感じる事ができるからぜひ行ってみたい、ひょっとしたら土器のかけらなんか落ちているかもしれない。



第2図 さまざまな古墳の形

図4. 古墳の種類

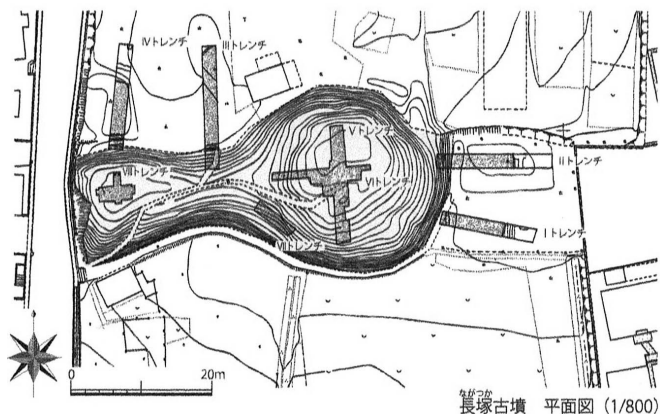


図5. 長塚古墳

ところで、古墳という大きなお墓が作られたのはいつ頃だろう。みんなは静岡市にある登呂遺跡に行ったことはあるよね、高床倉庫（図6）のねずみ返し 아이디어は面白かったね。この登呂遺跡にあった、かやぶき屋根の竪穴住居や高床倉庫の周りは広い田んぼだったよね。日本に中国大陆から稲が伝わって来て、米が盛んに作られるようになったのが登呂遺跡に代表される弥生時代（やよいじだい）だ。そして、古墳時代はこの弥生時代の次の時代で、古墳がたくさん作られたから古墳時代とよんでいる。今から1800年位前、3世紀の中頃から8世紀の初めの頃までだよ。

それじゃあ、古墳時代になぜこんなに大きなお墓が作られるようになったんだろう。その秘密は弥生時代に始まった、水田稲作にあるんだ。それまで、日本に住んでいた人々はおもに動物や植物など、自然の動植物を狩ったり採取したりして生活していたんだ。だけど、弥生時代に入ると大陸から伝わった水田稲作により、食べ物を自然をたよる以外に自分から育て、そこから食べ物を得るようになったんだ。稲を育てるために田んぼを広くしてゆけばゆくほどたくさんの米が取れるようになったんだよ。そして忘れてはいけないのが、お米の粃米（もみごめ）の長く保存できる事で、登呂遺跡の高床式倉庫にはたくさんのお米がたくわえられ、村人の生活を支えていたんだね。



図6 高床倉庫

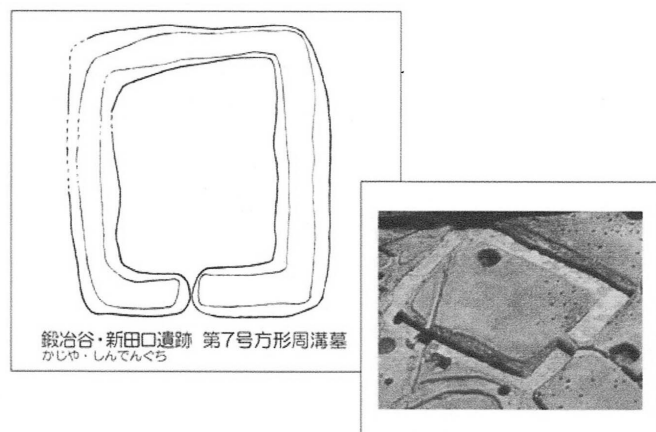


図7. 方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）

みんなの好きな、おいしいお米をつくるためには、たくさんの手間がかかるのはあたりまえだね。田んぼをたがやしたり、水をひくための水路を作ったり直したり、田植えや雑草とりをしたり。今は機械がやってくれるけど、昔はたくさんの方の協力が必要だったんだ。

そして、水田稲作はたくさんの方の協力しあう中でリーダーを生み。田を広げてゆけばゆくほど、ムラは豊かになり、村のリーダーはますます力をたくわえていくようになったんだ。

そして、村のリーダーの力がましてゆくと、その力を示す大きな墓が作られるようになった。方形周溝墓（図7）はそのひとつで、四方を溝で囲んだ大型の墓は、村のリーダーがその力をしめすものとして、より大きな墓になって行って古墳の形に発展して行くんだ。

そしてもう一つ、水田稲作の普及と発展は、富める人やムラと貧乏な人やムラを生み出した。自然災害が多い日本だ、豊かな土地とたくわえのあるムラは良いが、やせた土地で苦しむムラは台風や日照りにひとたまりもない。食べ物をめぐる、生きるための争いが、人やムラの間に争い生みだし、集団による争い「戦争」が生まれたのも弥生時代の特徴なんだ。

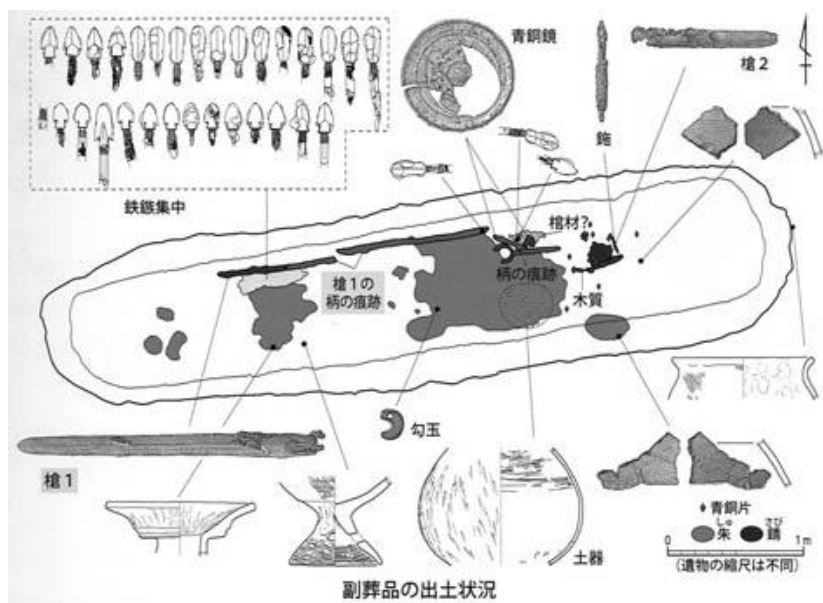


図8. 高尾山古墳土坑内の副葬品

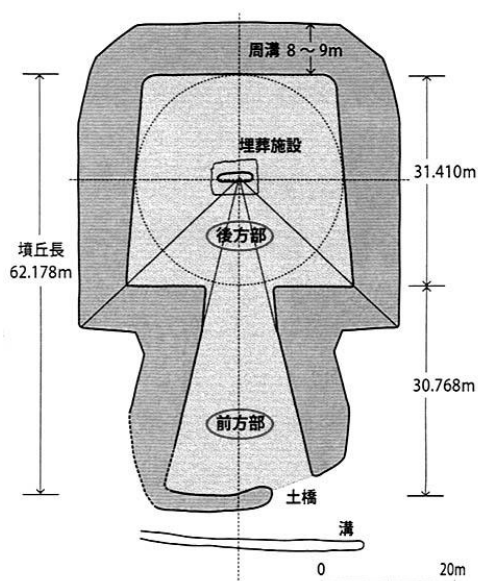
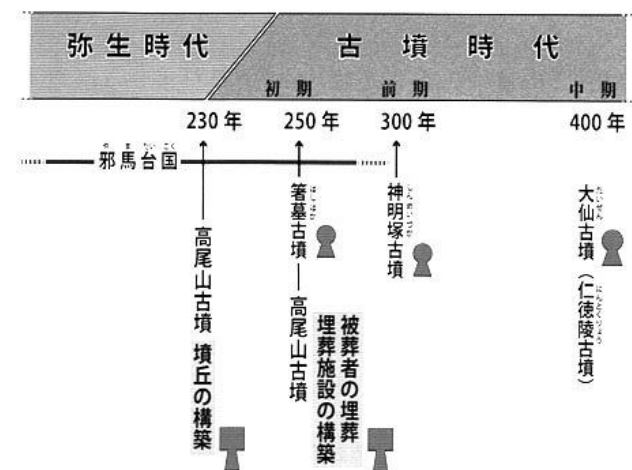


図9. 高尾山古墳復元平面図

図8は高尾山古墳の後方部の土を盛った部分（墳丘）に掘られた墓あな（墓坑）にひつぎ（木棺）といっしょに埋められたもののようすだ。青銅製の割られた鏡の他には、鉄のやじり（鉄鏃）や大きなやり（槍）が目を引くね。ここにまいそうされた人が武力をもったリーダー（首長）だったことが想像できるね。



弥生時代から古墳時代への移行と高尾山古墳の年代

死んだ人の体がないのは、日本の場合は数百年たつと、酸性の土によって死体はほとんどとけて消えてしまうからなんだ。

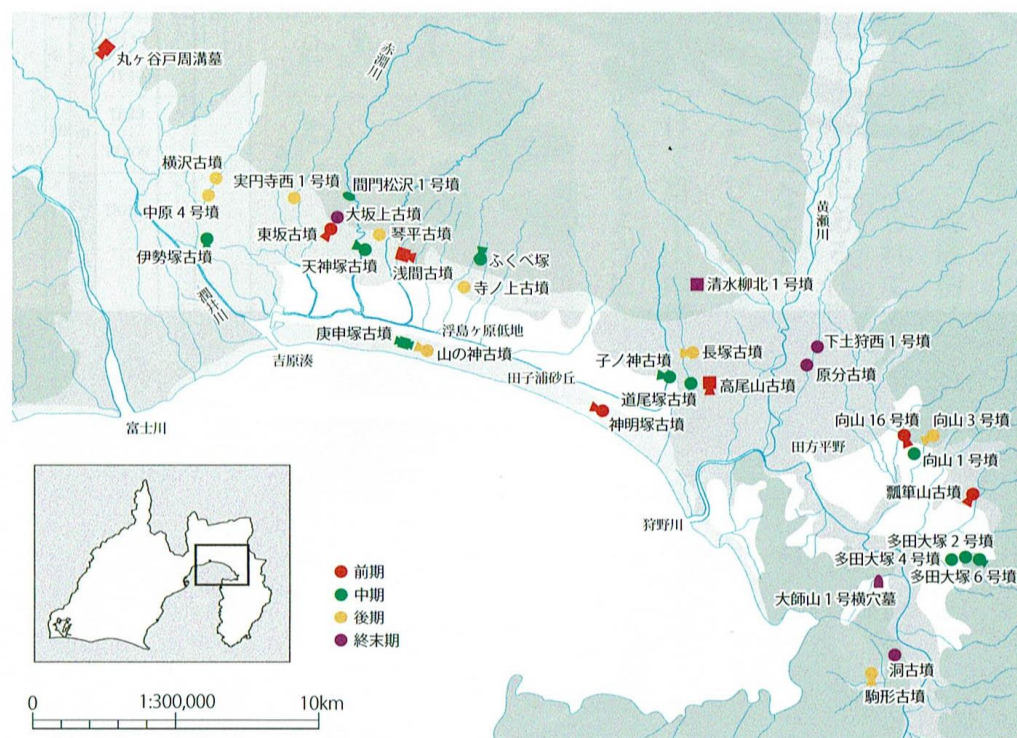
ところで、静岡から沼津くらいの地域を古い呼び方でスルガとよんでいたのを知っているかな。そして、スルガの中心を今は静岡市一帯を想像するけど、古墳時代前後にはスルガの中心地は沼津あたりだったと考えられている。すると高尾山古墳に埋葬されたのは私たちのずーっと前の祖先で、スルガの首長、王だったかもしれない。

図10. 古墳の年代

そういえば、卑弥呼（ヒミコ）って名前聞いた事があるかな、中国の古い歴史書に書かれている日本の古いクニの呼び名、倭（わ）の国の王（女王・ミコ）なんだが、歴史書によと弥生時代後期の倭国では小国どうしの争いが絶えず、この卑弥呼を王としてたて、国を落ち着かせたと書かれている。そしてこの卑弥呼と戦ったクニの王の一人が高尾山古墳の被葬者（埋葬された人）であったと考える研究者もいるんだ。

このようにムラが大きく豊になり日本全土に小さなクニがうまれ、国が落ち着くと、リーダー（首長）たちはクニの力と自分の力を示す大きな墓、古墳をたくさん作ったんだ。

これが古墳時代で、高尾山古墳はこの古墳時代の幕開けに位置する東日本最大級最古級の古墳といえるんだ。図11. は東駿河の首長の古墳の分布だ、僕たちの周りにはこんなにもたくさんの古墳があるんだ、図書館やインターネットで調べ、君も、古墳探しの歴史冒険をしてみないか。



MAP 1 東駿河における首長墓の分布

図 1 1

参考資料

- ・スルガ最初の王ここに眠る 「高尾山古墳」 発行 沼津教育委員会・沼津文化財センター
- ・高尾山古墳ガイドブック「スルガの王 大いに塚を造る」 発行 沼津教育委員会・沼津文化財センター

<http://orange.zero.jp/thoru.boat/20120722takaosanshinpo1.pdf>

このアドレスで上記資料にアクセスできます。

高尾山古墳を守る会

代表 〒 410-0058 沼津市沼北町2-14-19 鈴木 博
事務局 〒 410-0018 沼津市豊町5-3 江藤 幹夫
E-mail xd857322@cg8.so-net.ne.jp
TEL 055-923-3877
HP <http://takaosankofun.g1.xrea.com>
Email takaosank_dayori@excite.co.jp (ご感想、ご質問などお待ちしております)
Facebook <https://www.facebook.com/higashikumandohkofun/>

